

2013年3月期

スルガ銀行

インベスターズ・プレゼンテーション

Presentation to investors on fiscal year ended March 31, 2013

Meeting the Challenge of New Banking



SURUGA bank

経済転換期における視点の変化

開発から回復へ

文明の発展を優先し、
自然の循環を遮断した
行為の見直し

中央から地域へ

世界・日本全体の視点から
地域・小集団の特性が重要視

画一から多様へ

標準化や効率化の追求から
特徴や個性を活かす時代

物質的満足から 精神的満足へ

成熟社会では、「縁」や「絆」等
心の拠りどころを持つ生き方が
見つめ直されている

期待すべき未来に向けて、日本はどのような道を進んでいくべきか

経済競争力だけでなく「日本の魅力」を発信

世界を引きつける力へ繋がる

文化力

文化に蓄積された重要な
情報を回復する努力

多様力

生物・言語・食など、島国のなかに
存在する多様性を活かす取り組み

名誉力

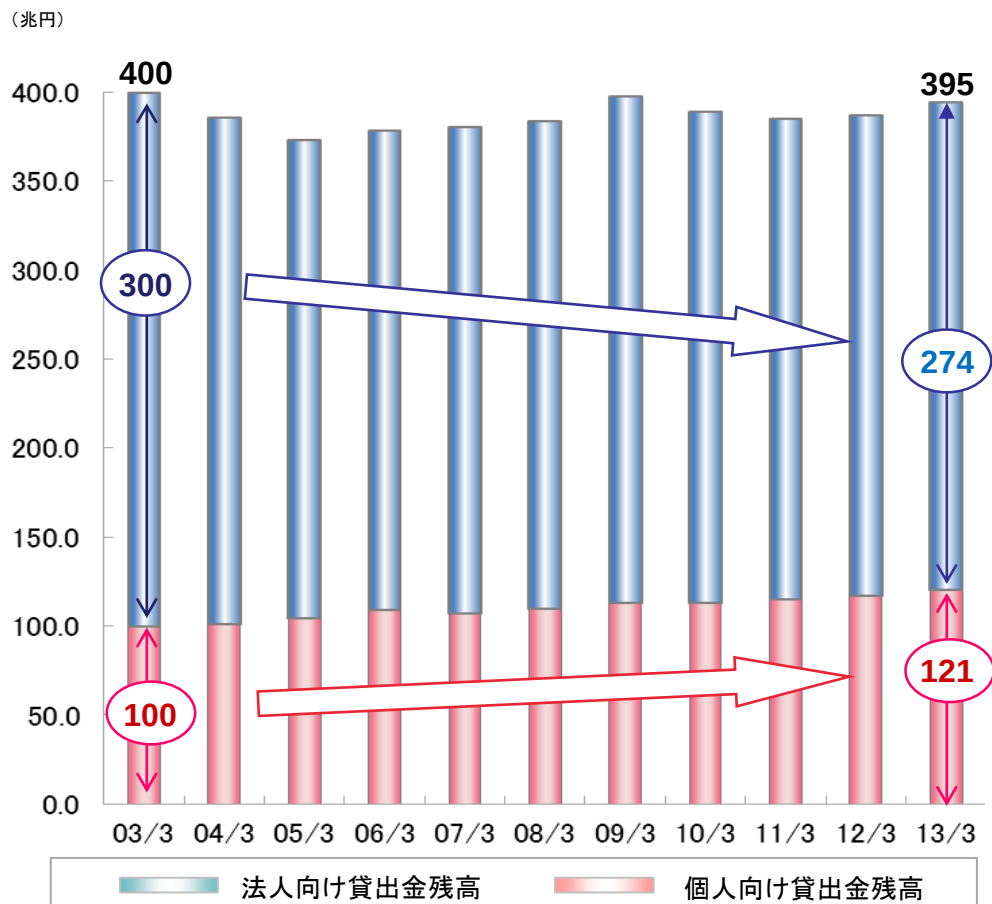
利己的でなく利他的行動の重視や
自立の精神を尊重する姿勢

**企業が日本のアイデンティティを見直し、経済活動や
企業経営に取り組むことが、新しい日本を創る力に**

出所：月尾嘉男

■ 邦銀を取り巻く環境認識

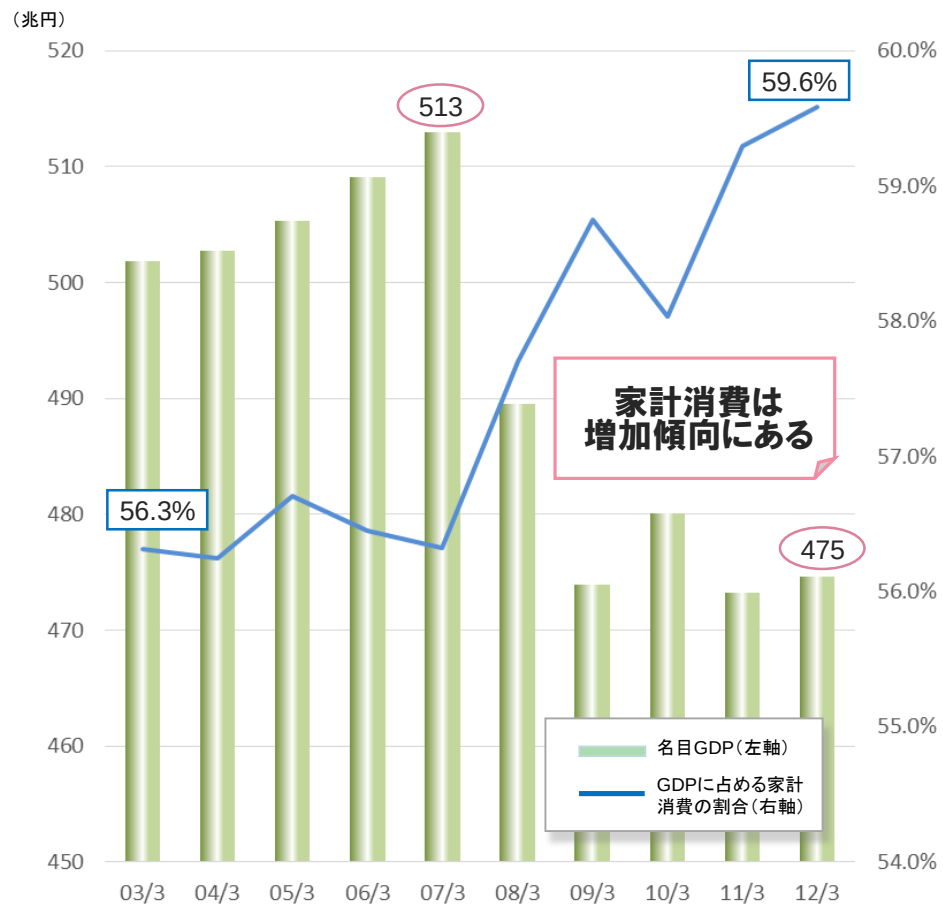
国内銀行「法人・個人」貸出金残高の推移



出所: 日本銀行データより作成

合計の貸出金残高が縮小傾向にあるなか、
継続した個人消費へのサポートが経済成長の一役を担う

GDPに占める家計消費の割合

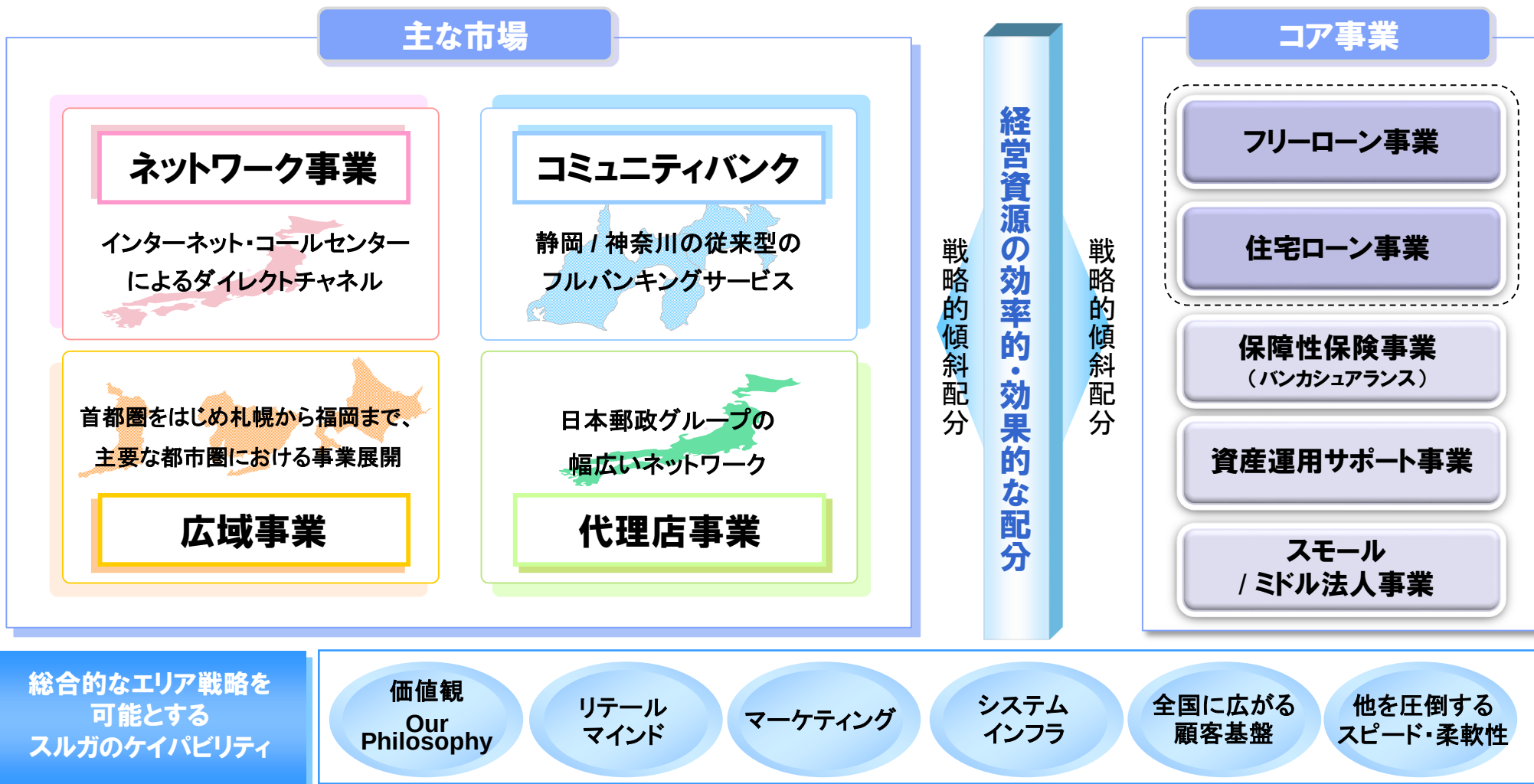


出所: 内閣府データより作成

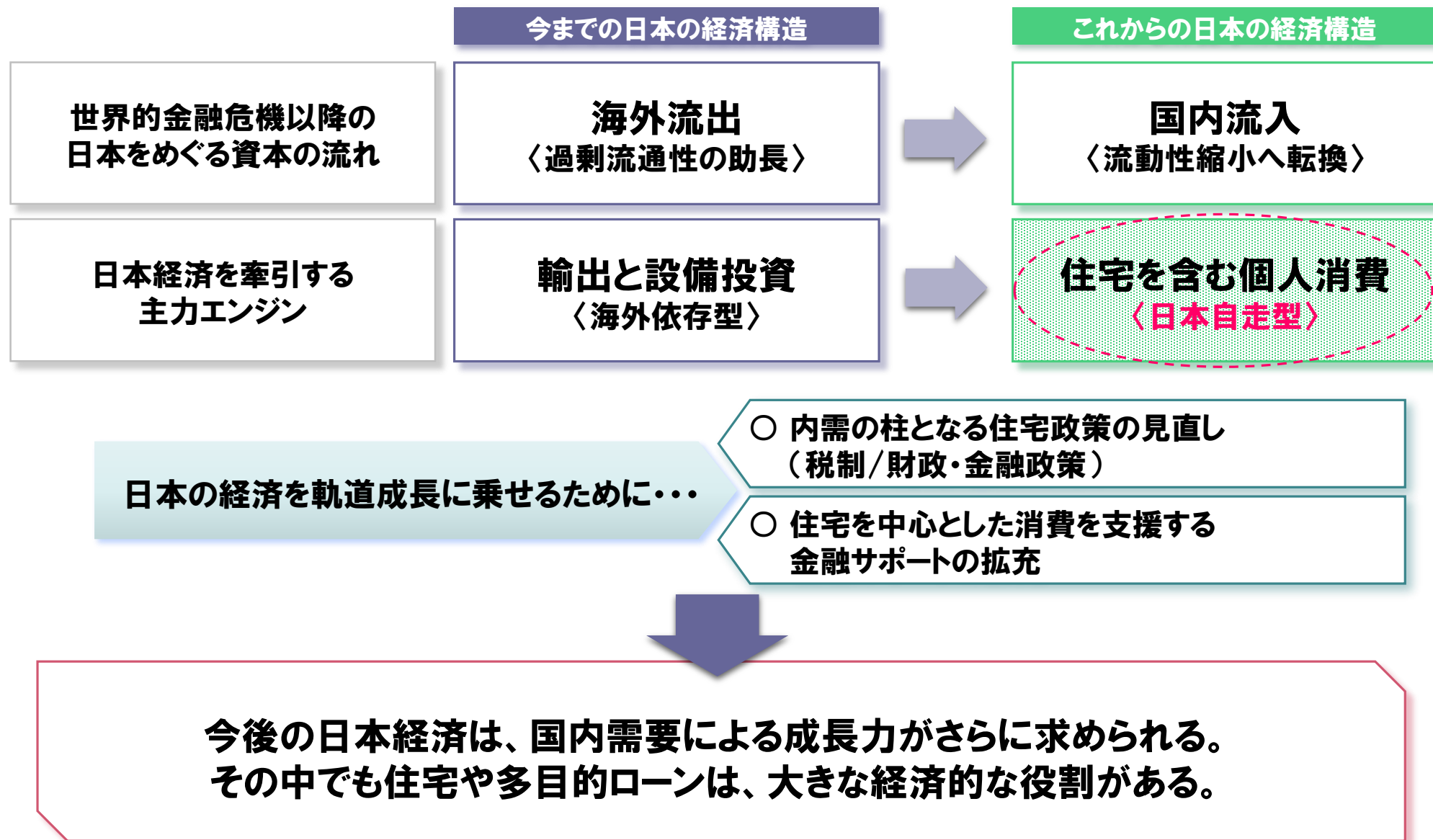
回復基調の「家計の消費行動」を金融面で支えるため、
貸金業者に代わり、銀行が提供する個人ローンに重要な役割が!

■ 第5次経営計画グランドデザイン

市場の特性を活かし、顧客軸を付加した価値創造実現へ
ー スルガのリテール特化戦略により培ったノウハウを最大限に発揮 ー



■ 内需拡大と住宅産業



■ 住宅ローン市場を取り巻く環境認識

住宅事業の環境認識



今後のスルガの住宅ローンビジネスの方向性

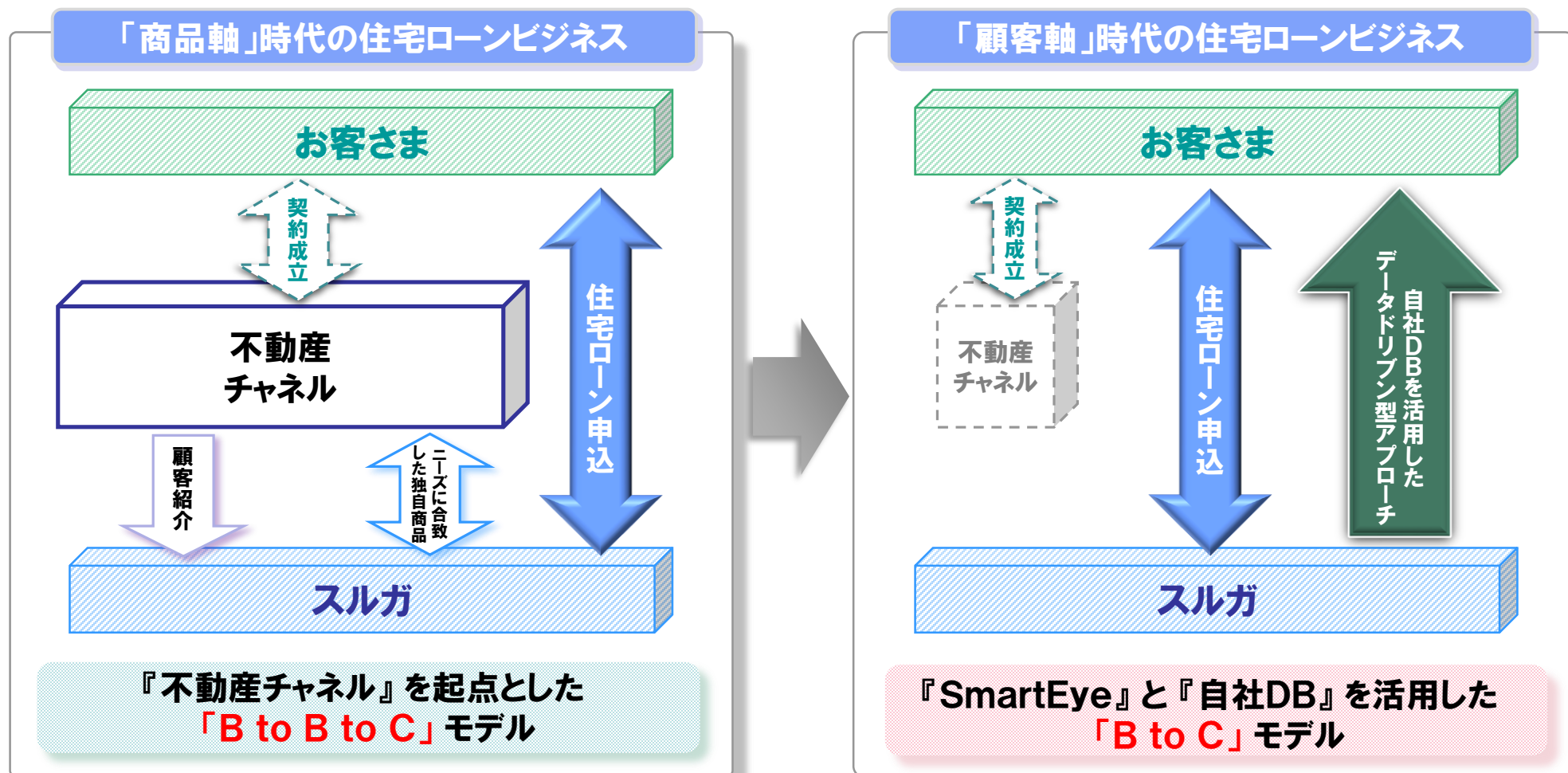
マーケット環境・顧客属性の
変化を的確に捉え、
よりきめ細やかな対応

多様化する価値観や
ライフスタイルに対し、
多角的なサポート

ストックの有効活用と
活性化に対する
独自の価値提供

■ スルガの住宅ローンビジネス

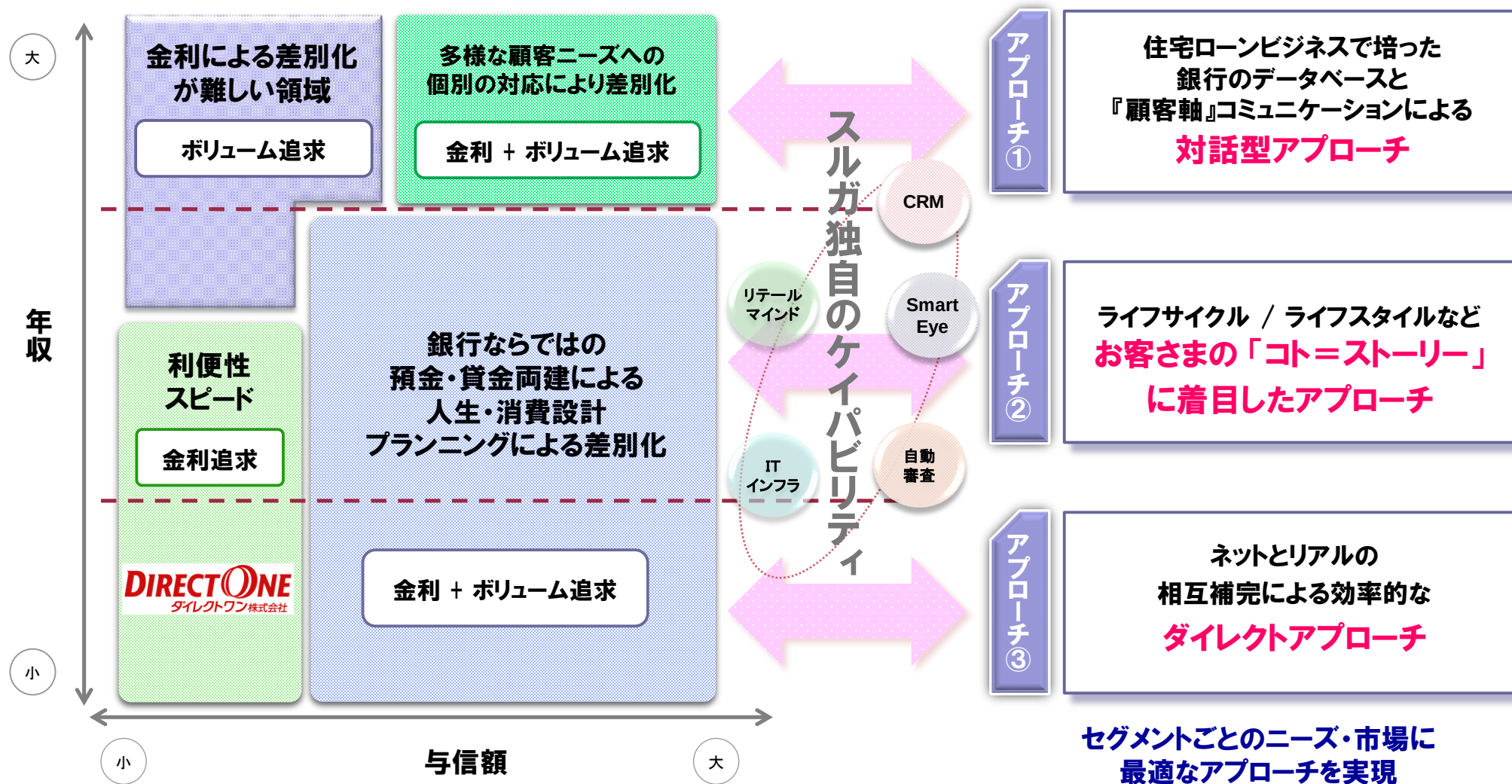
スルガの住宅ローンビジネスは時代の変化にあわせて進化し続ける



スルガの住宅ローンビジネスはチャネル営業に依存しない
金利競争とは一線を画した「顧客軸」を付加したビジネスモデルを展開

■ スルガ独自のフリーローンビジネス

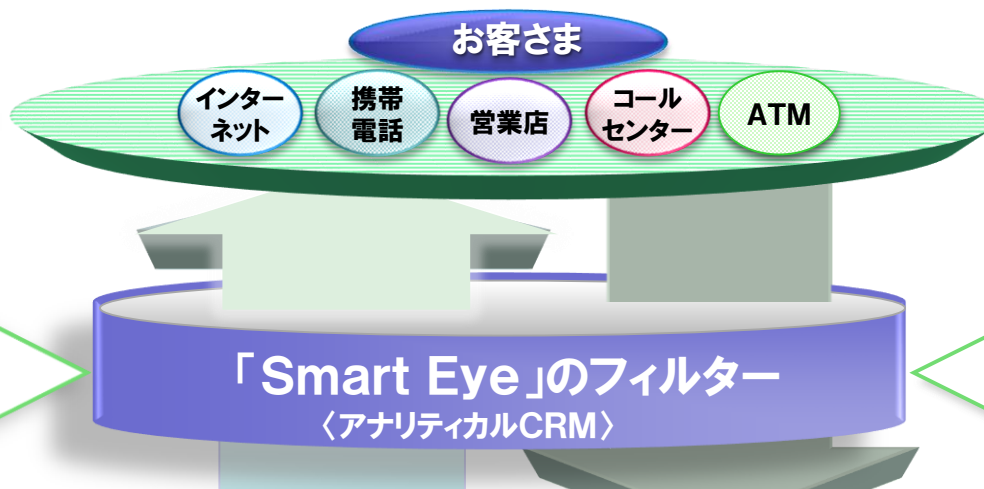
スルガのフリーローン戦略は、気づきと対話、「コト＝ストーリー」を重視した“3つのアプローチ”によりさらなる進化へ



■ 多様化する価値観に対応したスルガのマーケティング

- 複雑化する価値観を的確に捉え、お客さまの内面にある願望を顕在化
- 多様化する自己実現をより確実に、より多角的なサポートを行う

提案コンセプトの最適化
〈コト・ストーリーの選択〉



コンタクトチャネルの最適化
〈顧客接点の選定〉

コンタクトタイミングの最適化
〈ライフイベントを先読み〉

顧客価値の最適化
〈セグメントごとの独自価値を明確化〉

「CRM」〈オペレーショナルCRM〉

定性的な情報の蓄積によって顧客軸に基づくコンサルティングが可能

〈定量的データ〉

年齢・性別

年収

職業

取引金額

家族構成

取引履歴

×

〈スタイル〉

ライフサイクル

消費行動・消費動向

〈価値観〉

挑戦志向

自立型

専門型

能動的

安定志向

協働型

汎用型

受動的

逃避志向

依存型

万能型

中間的

■ 情報活用による価値創造戦略

デジタルテクノロジーの進化によるビジネス環境の変化

コンピュータと経済は
さらに早く変化し
情報量が拡大

テクノロジーへの投資
データに基づく経営が
優位性を生む

テクノロジーの進歩に
合わせて企業は変革を
求められる

お客さまに合わせた情報戦略のステップ

出所: MITスローンスクール 経営学 教授
エリック・ブリニョルフソン

1990年代

生産性の向上

業務効率化
マーケティングの進化

- ✓ 自動審査システム
- ✓ MAP-C / MCIF

2000年代

お客さま中心の情報基盤

お客さまの理解
関係深堀

- ✓ 3つのCRM
- ✓ インターネットバンキング

2010年～

「データドリブン」の企業文化

社内外のデータ活用
意思決定

- ✓ SmartEye / Sagent
- ✓ ソーシャルメディア

データに基づいた市場予測
経営の意思決定

積極的な情報活用が
競争力の源泉に

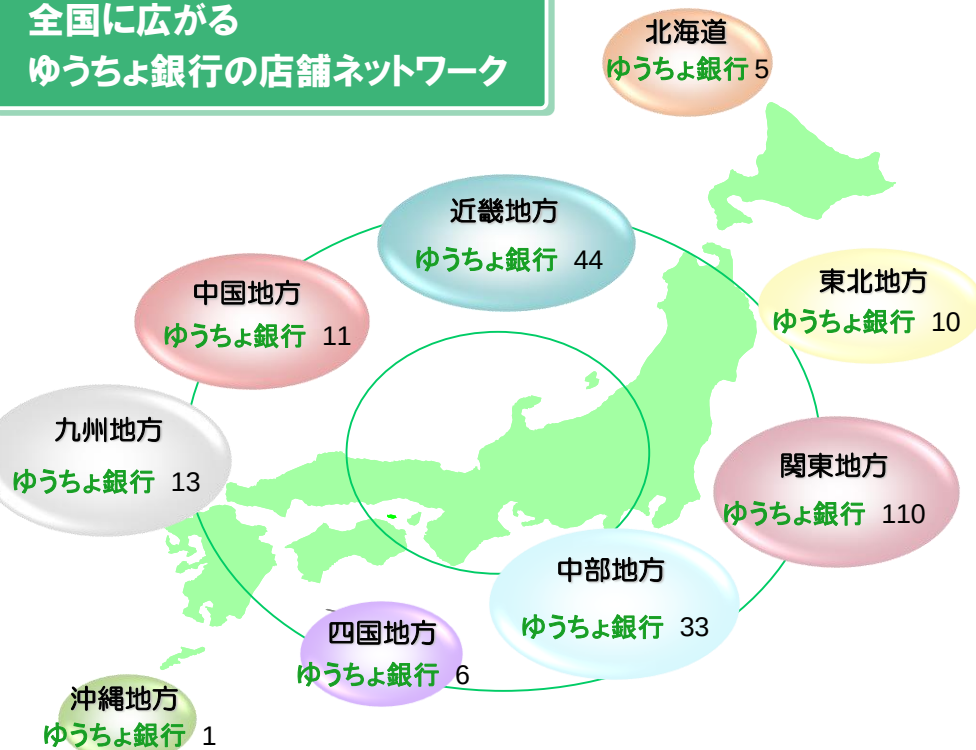
お客さまとの新たな価値創造
情報に基づく組織能力向上

■ ゆうちょ銀行との業務提携

日本全国に広がるゆうちょネットワークを活用したビジネス展開

ゆうちょ銀行全233 店舗で
目的別ローンおよびカードローンのお申込みが可能に

全国に広がる
ゆうちょ銀行の店舗ネットワーク



「お客さま」のニーズを大切に考えたローンを
より多くのお客さまにご提供

2013年3月末までの実績値

住宅ローン

2012年度上期
までの実績

2,331億円

2012年度下期実績

145億円

累 計

2,476億円

※1億円未満切捨て
※実績は「実行額」ベース

フリーローン

60千件

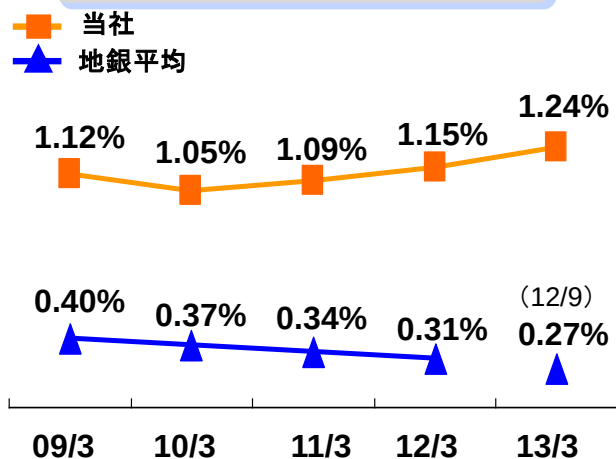
9千件

69千件

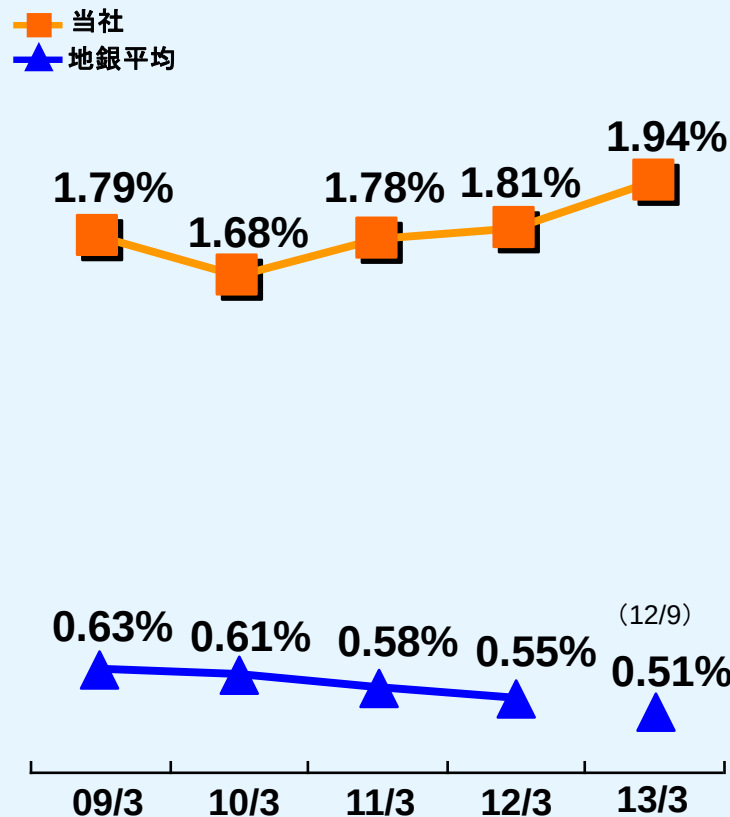
※千件未満切捨て

■ 利ざや等の状況 (全体)

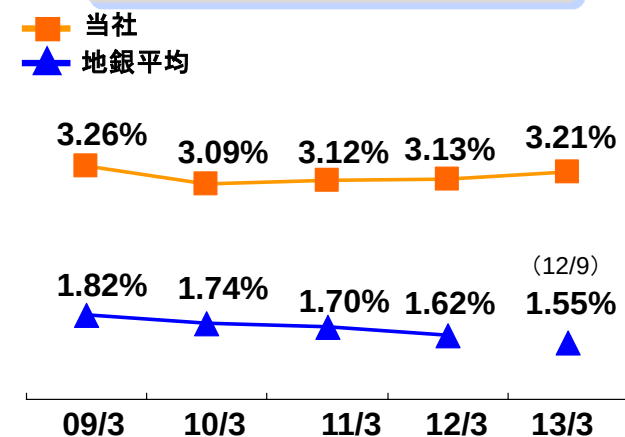
総資金利ざや



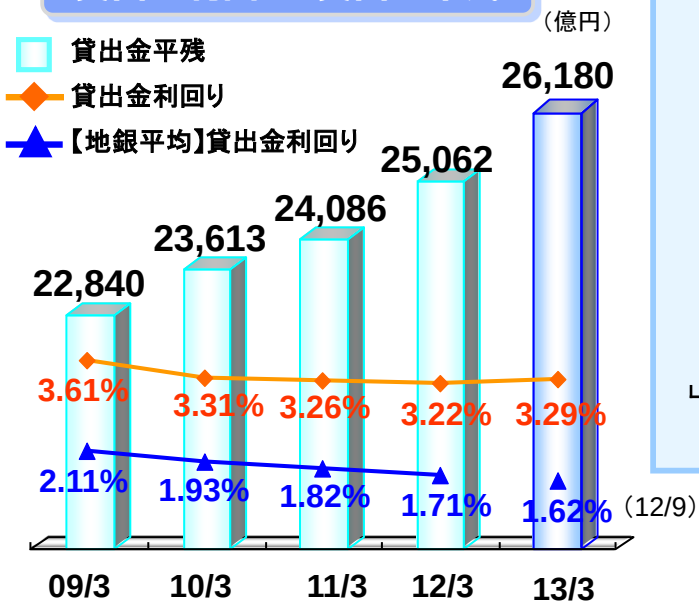
預貸金利ざや



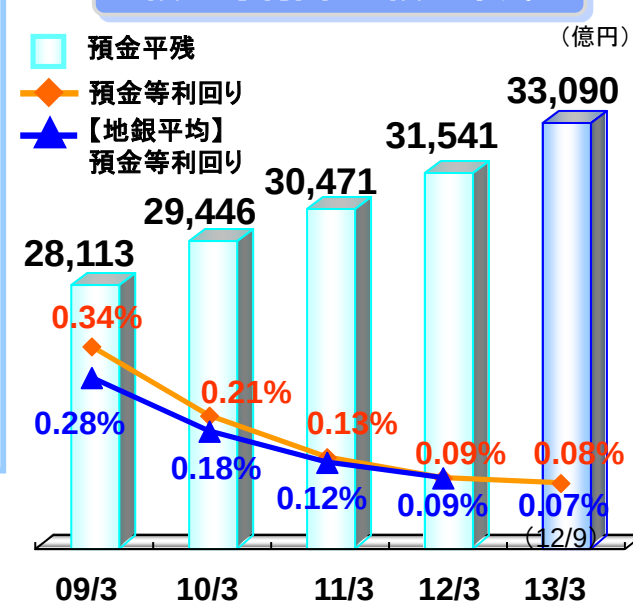
預貸金粗利ざや



貸出金利回りと貸出金平残



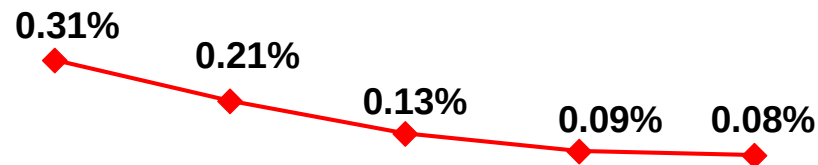
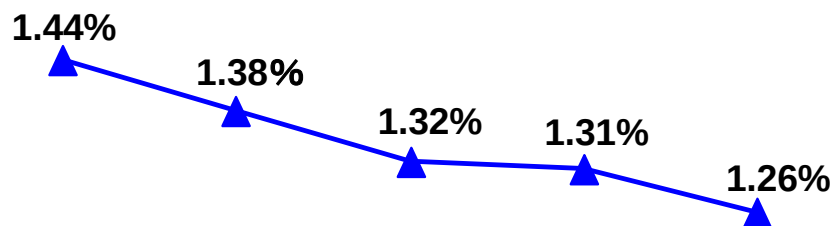
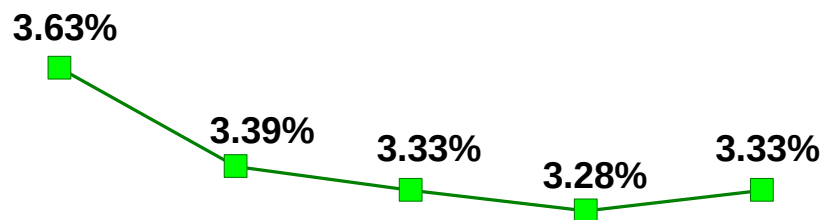
預金等利回りと預金平残



■ 利ざや等の状況(国内)

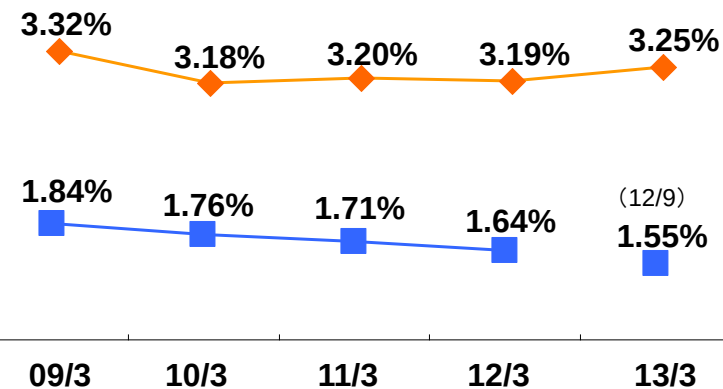
利回り・経費率の状況

■ 貸出金利回り ■ 経費率 ■ 預金等利回り



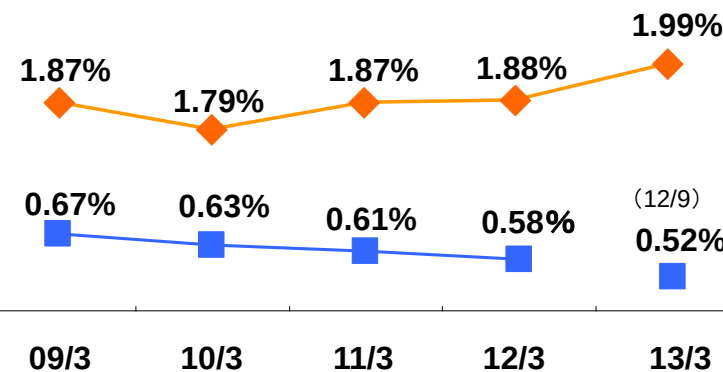
預貸金粗利ざや

◆ 当社
■ 地銀平均



預貸金利ざや

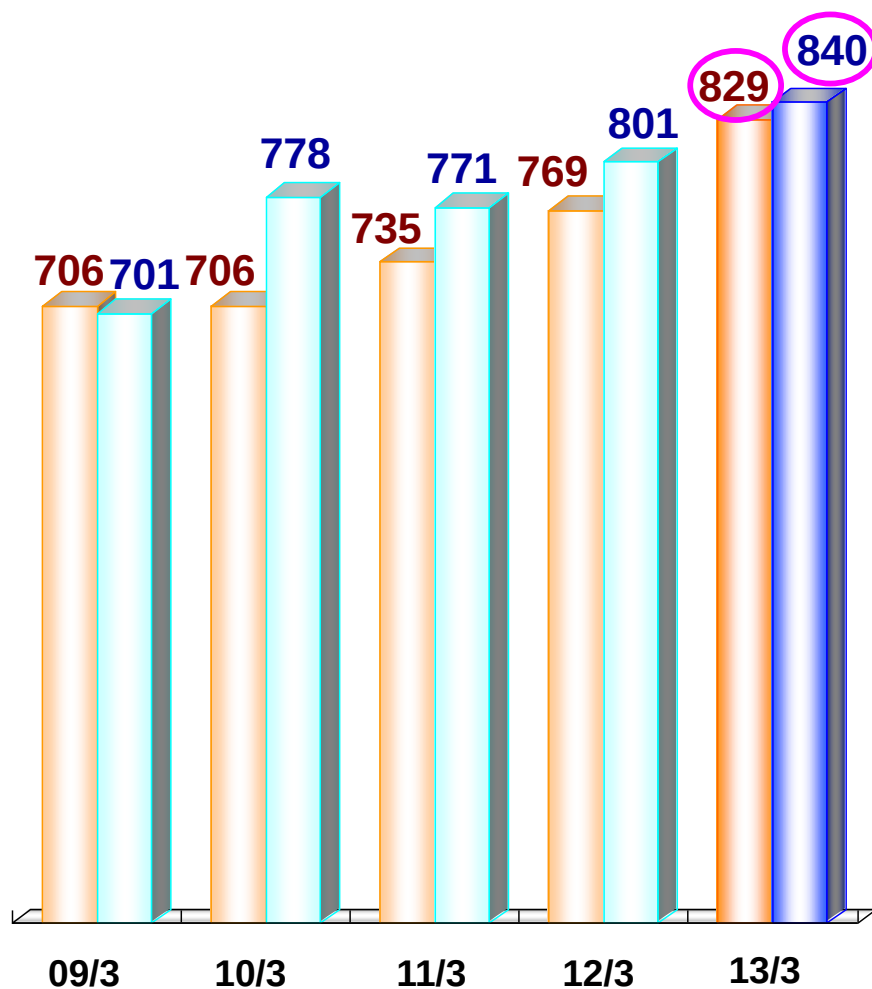
◆ 当社
■ 地銀平均



利益の推移

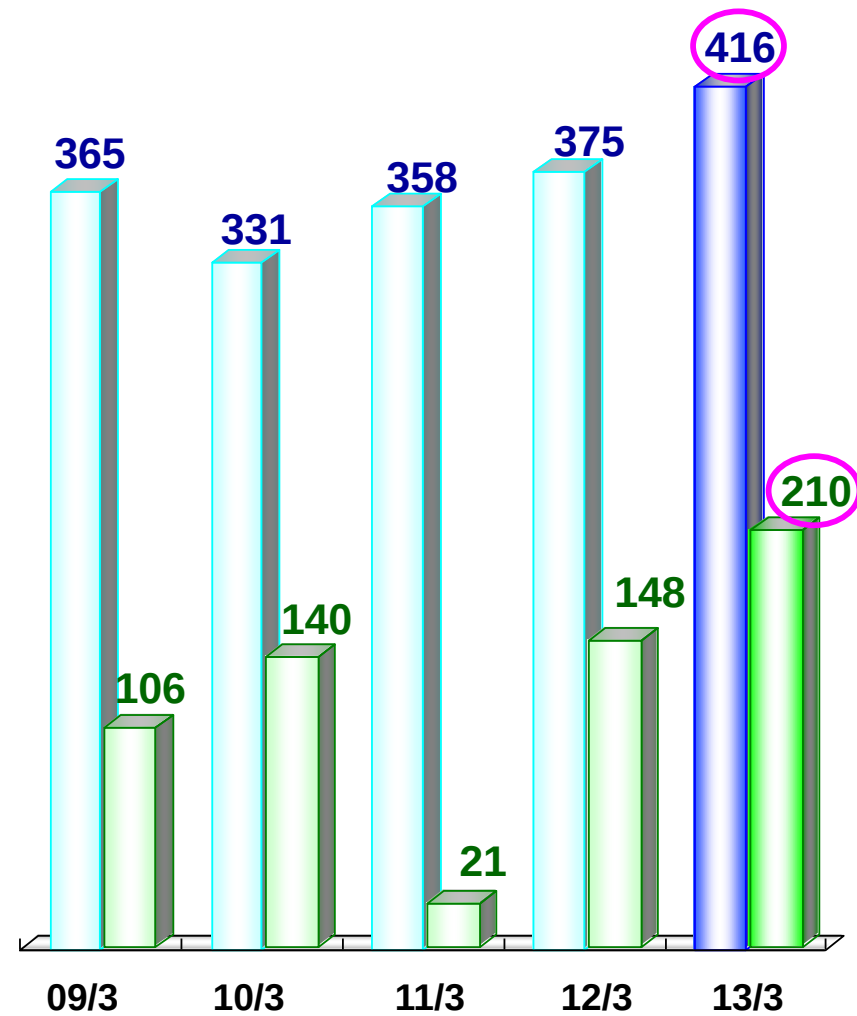
円貨預貸金利益と業務粗利益

■ 円貨預貸金利益
■ 業務粗利益
最高益 (億円)



コア業務純益と当期純利益

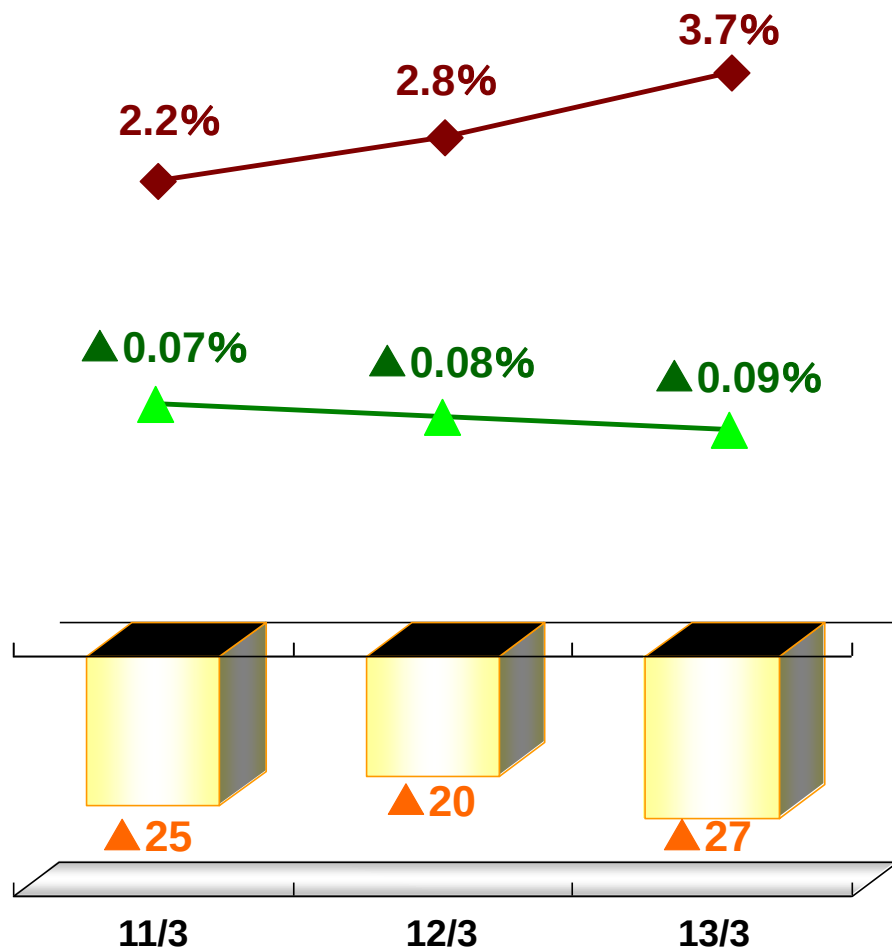
■ コア業務純益
■ 当期純利益
最高益 (億円)



■ 預貸金利益の推移

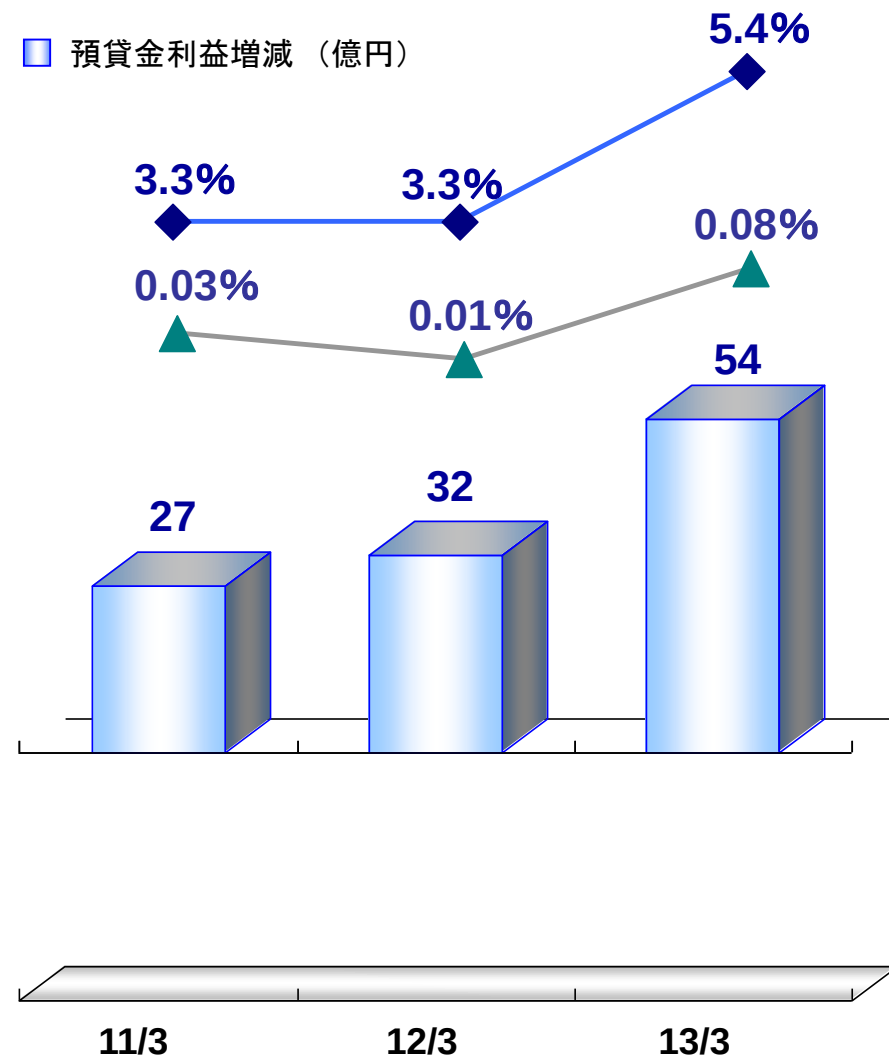
地銀上位10行

- ◆ 貸出金残高伸率(前年比)
- ▲ 預貸金粗利ざや(前年比)
- 預貸金利益増減 (億円)



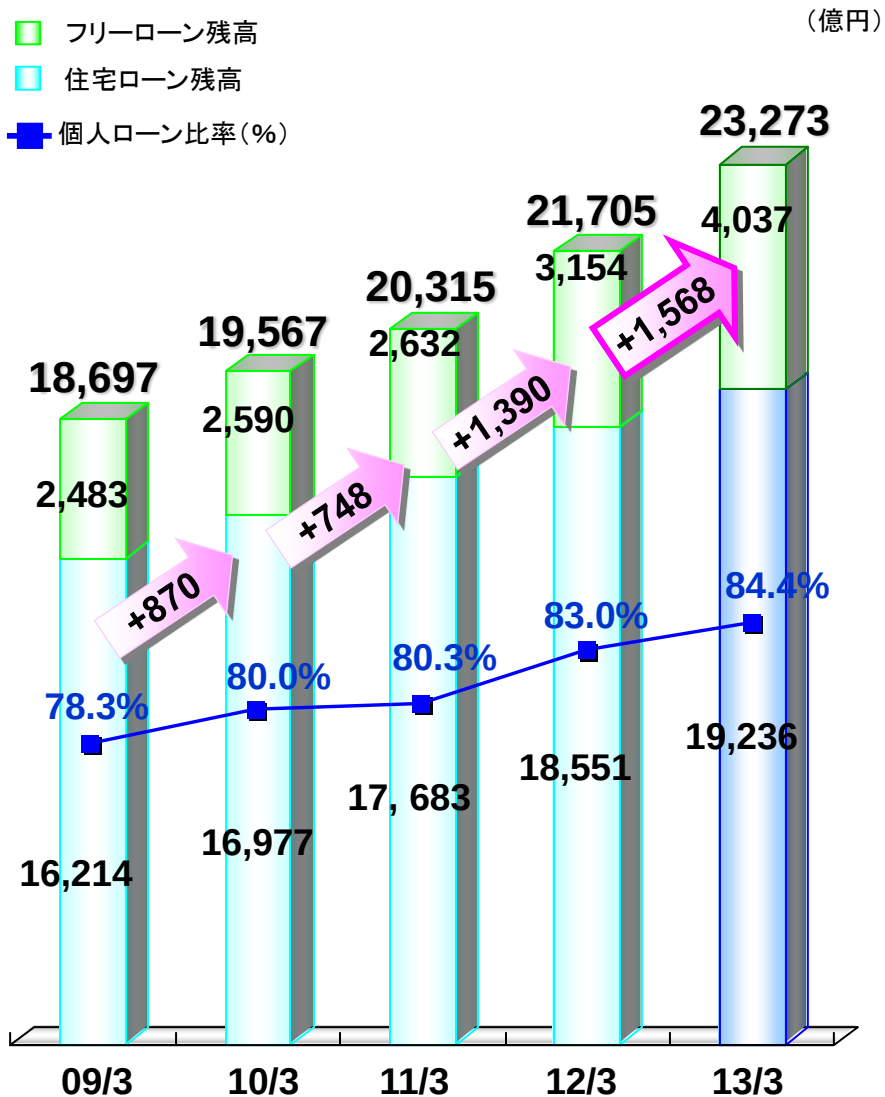
スルガ

- ◆ 貸出金残高伸率(前年比)
- ▲ 預貸金粗利ざや(前年比)
- 預貸金利益増減 (億円)

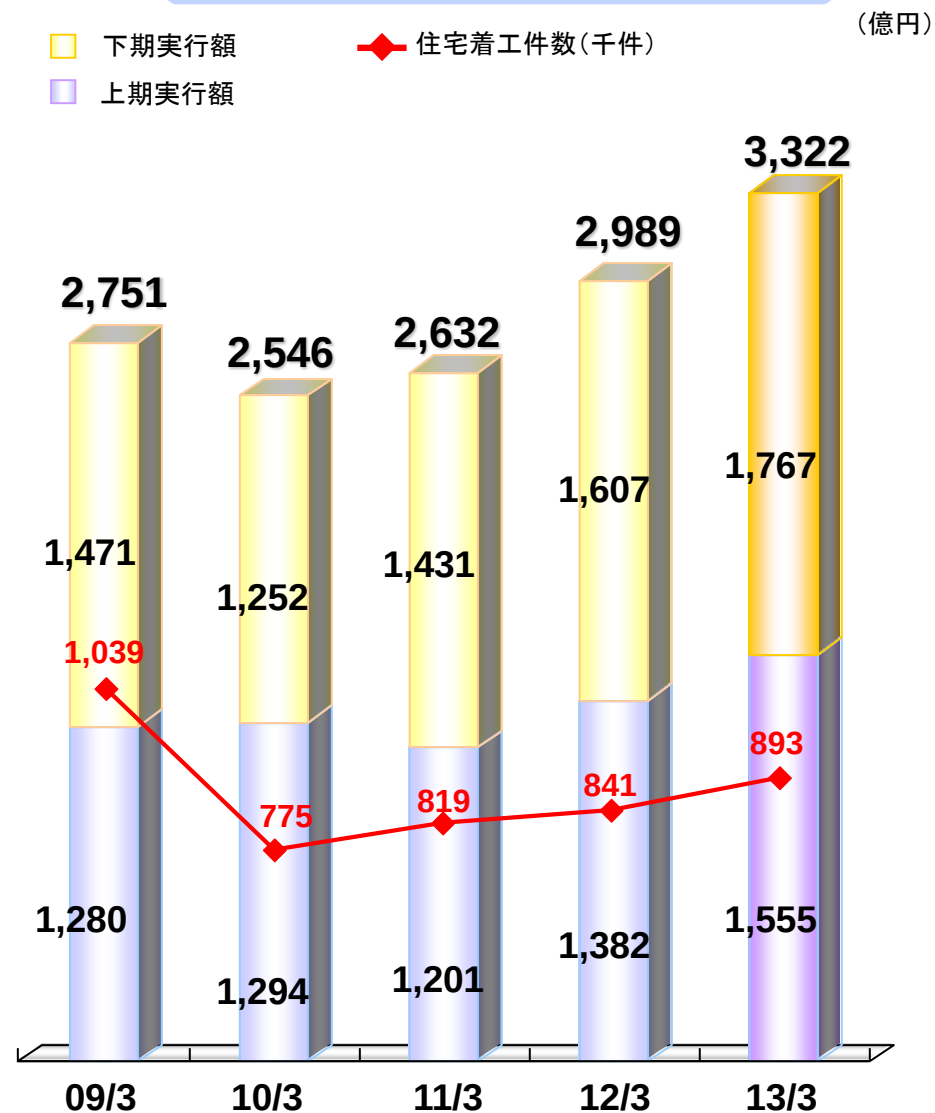


■ 個人ローンの状況 ①

個人ローン残高・個人ローン比率

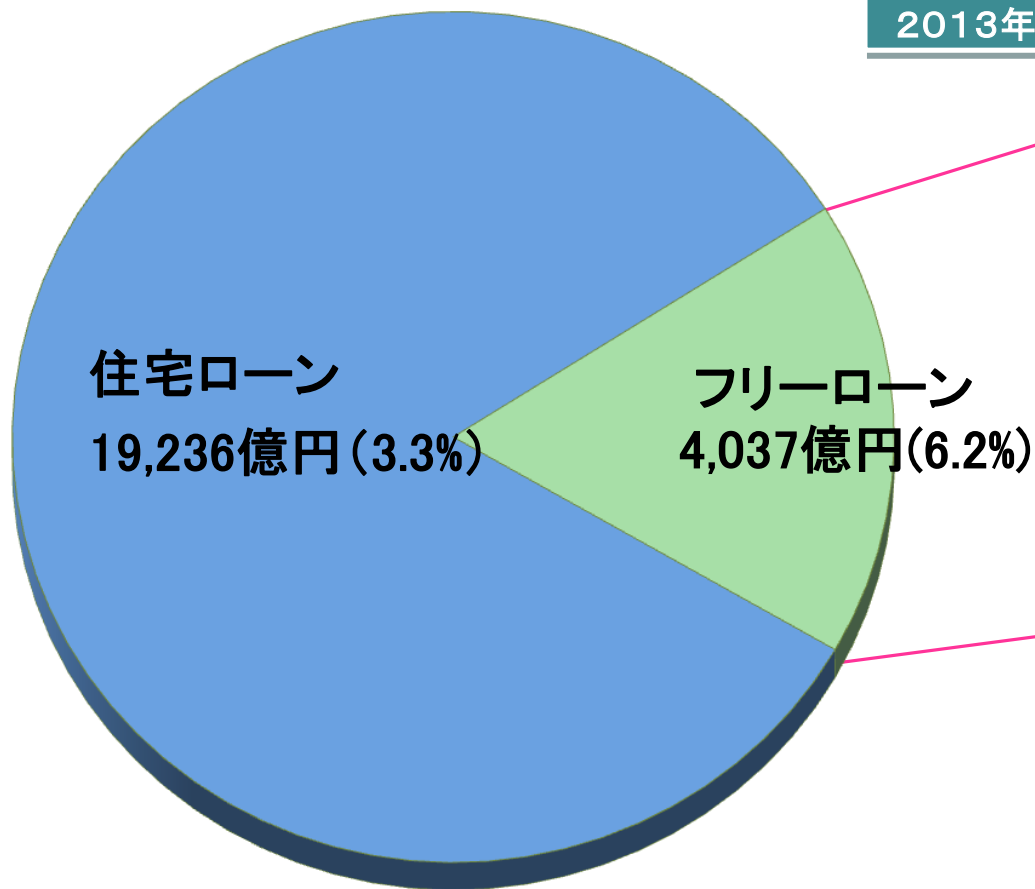


個人ローン実行額



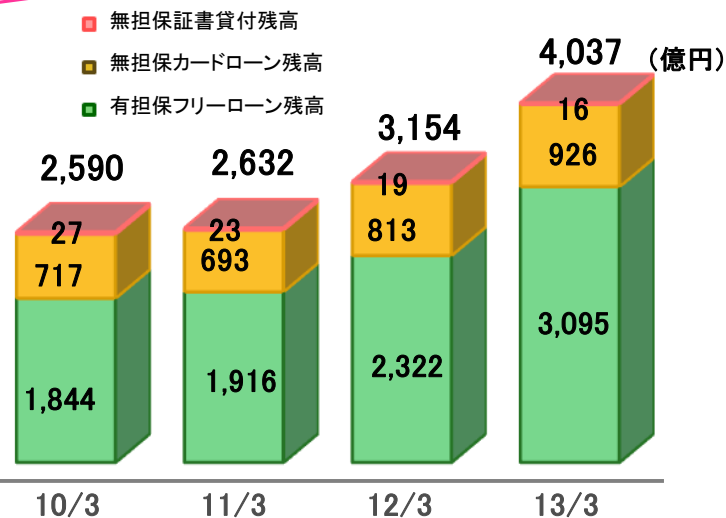
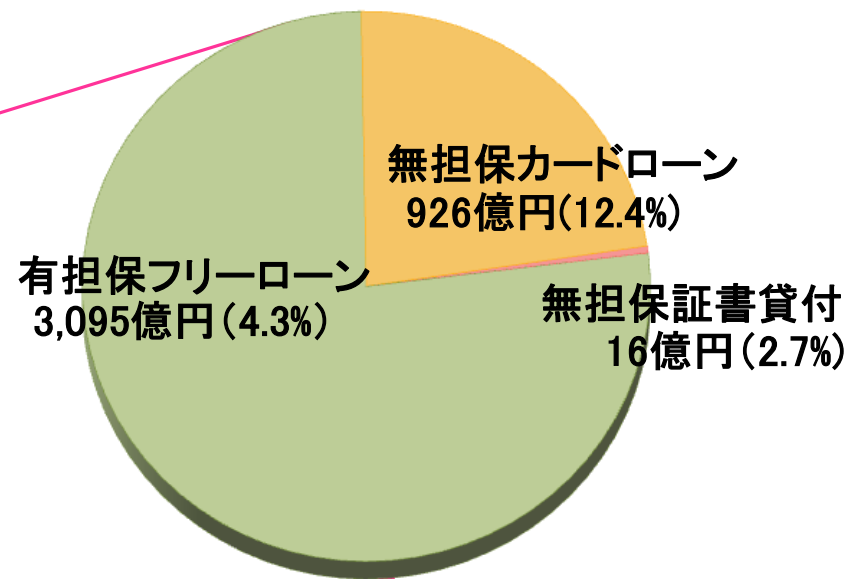
■ 個人ローンの状況 ②

個人ローン残高内訳・平均レート



個人ローン
23,273 億円 (3.8%)

フリーローン残高内訳・平均レート



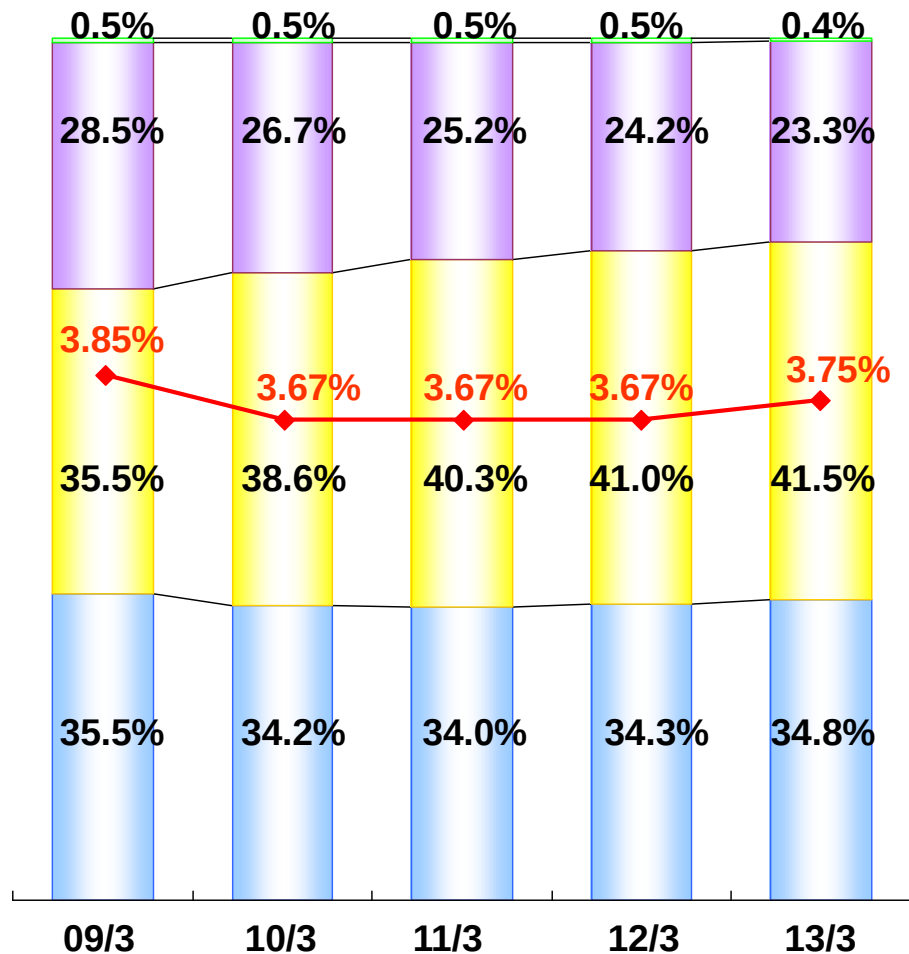
(注) ()内は平均レート

■ 住宅ローンの状況

住宅ローン実行レート分布(累計)

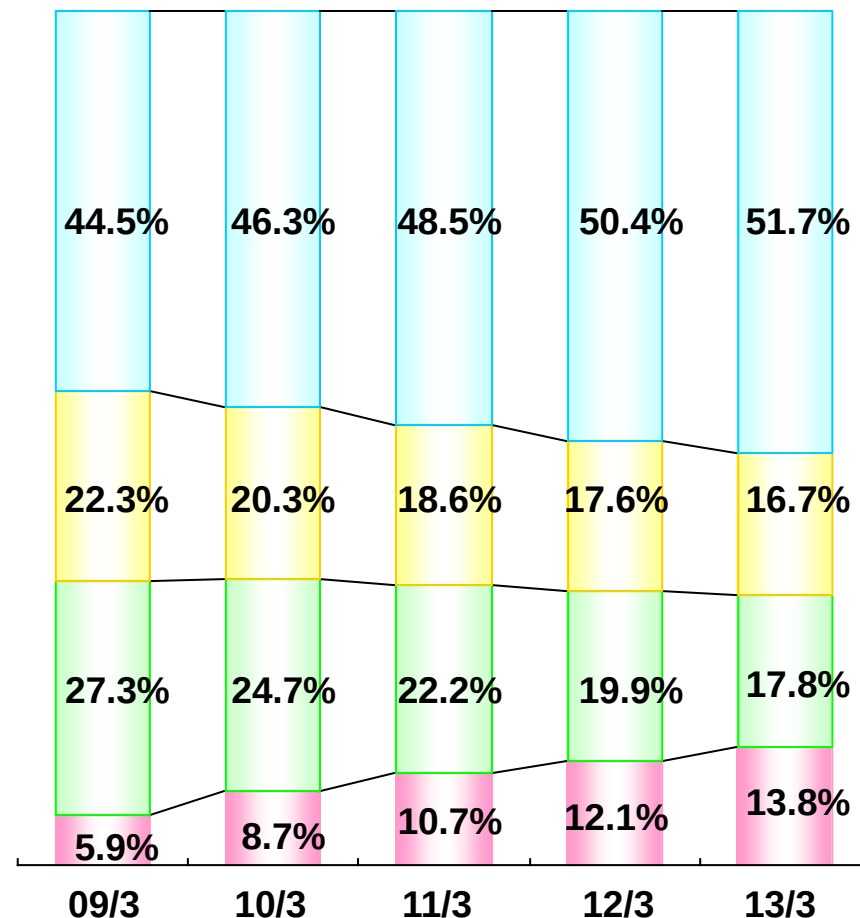
■ 3%未満 ■ 3%台 ■ 4%台 ■ 5%以上

◆ 住宅ローン実行平均レート(%)



住宅ローン地域別残高比率

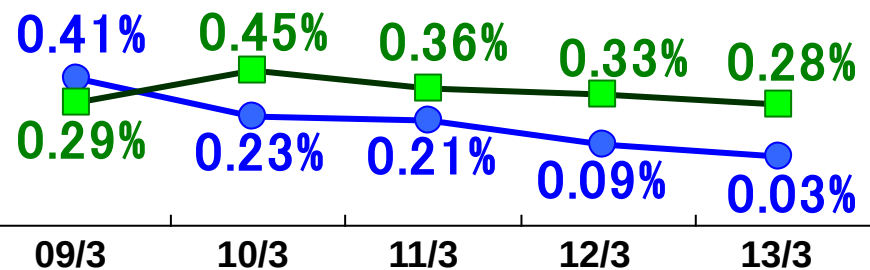
■ 首都圏 ■ 神奈川 ■ 静岡 ■ 広域



■ 個人ローンの延滞率・毀損率の推移

住宅ローン

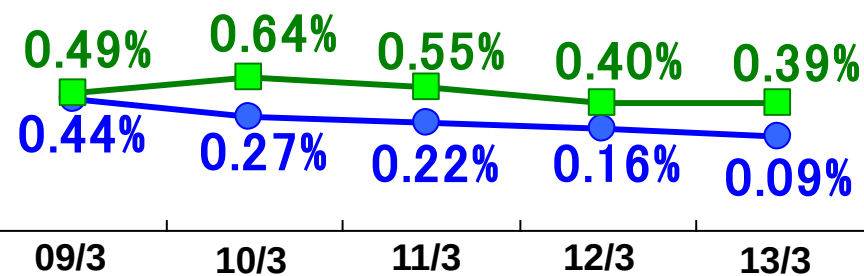
▲ 利回り ● 延滞率 ■ 毀損率



※延滞率=3ヶ月以上延滞債権 ÷ ローン残高

フリーローン

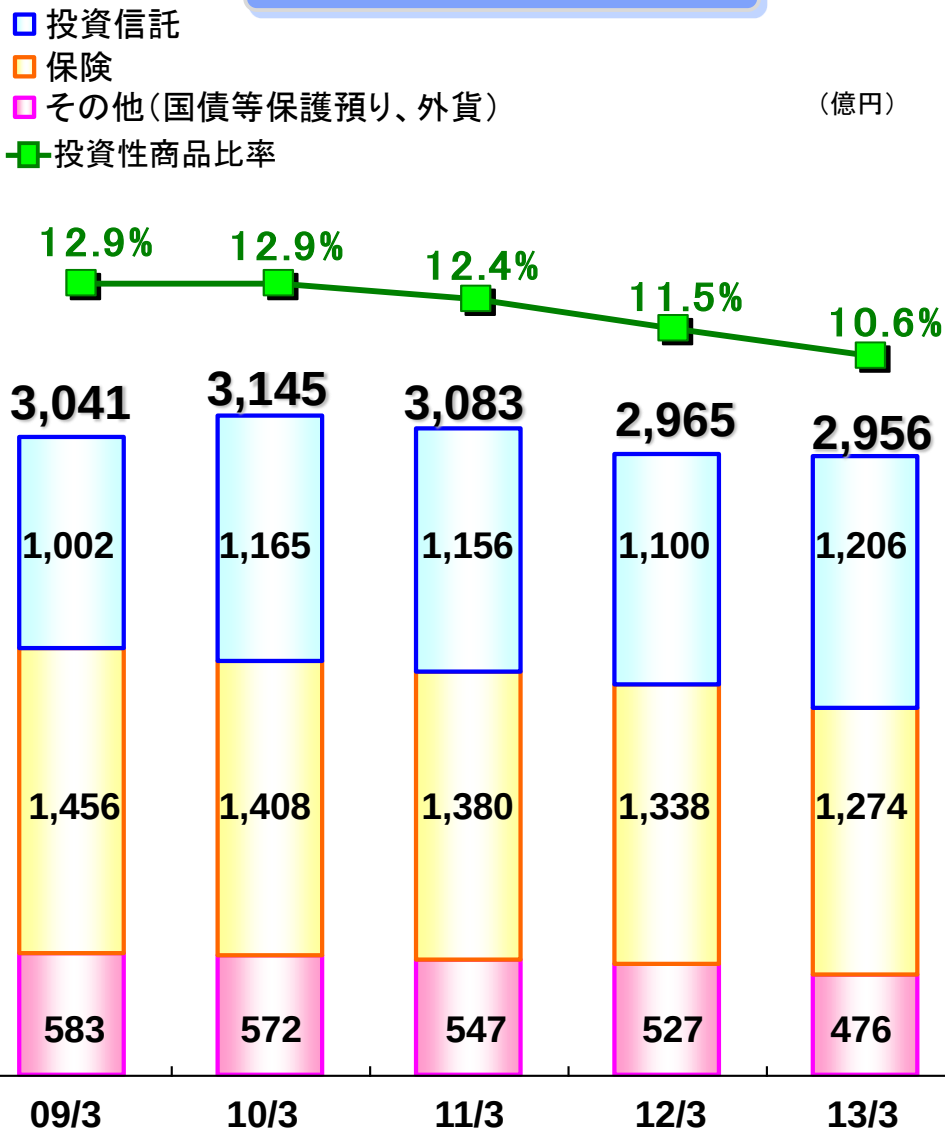
▲ 利回り ● 延滞率 ■ 毀損率



※毀損率=デフォルト率 × (1 - 回収率)

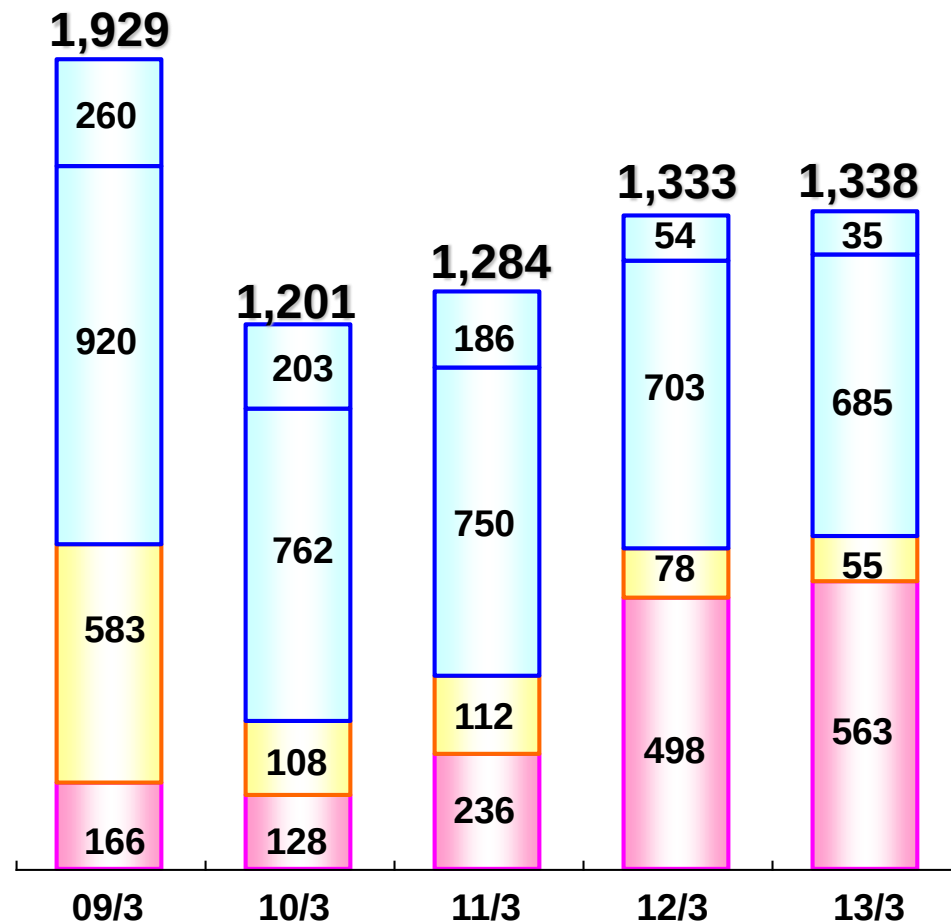
■ 投資性商品<残高・手数料>推移(個人)

投資性商品残高内訳(個人)

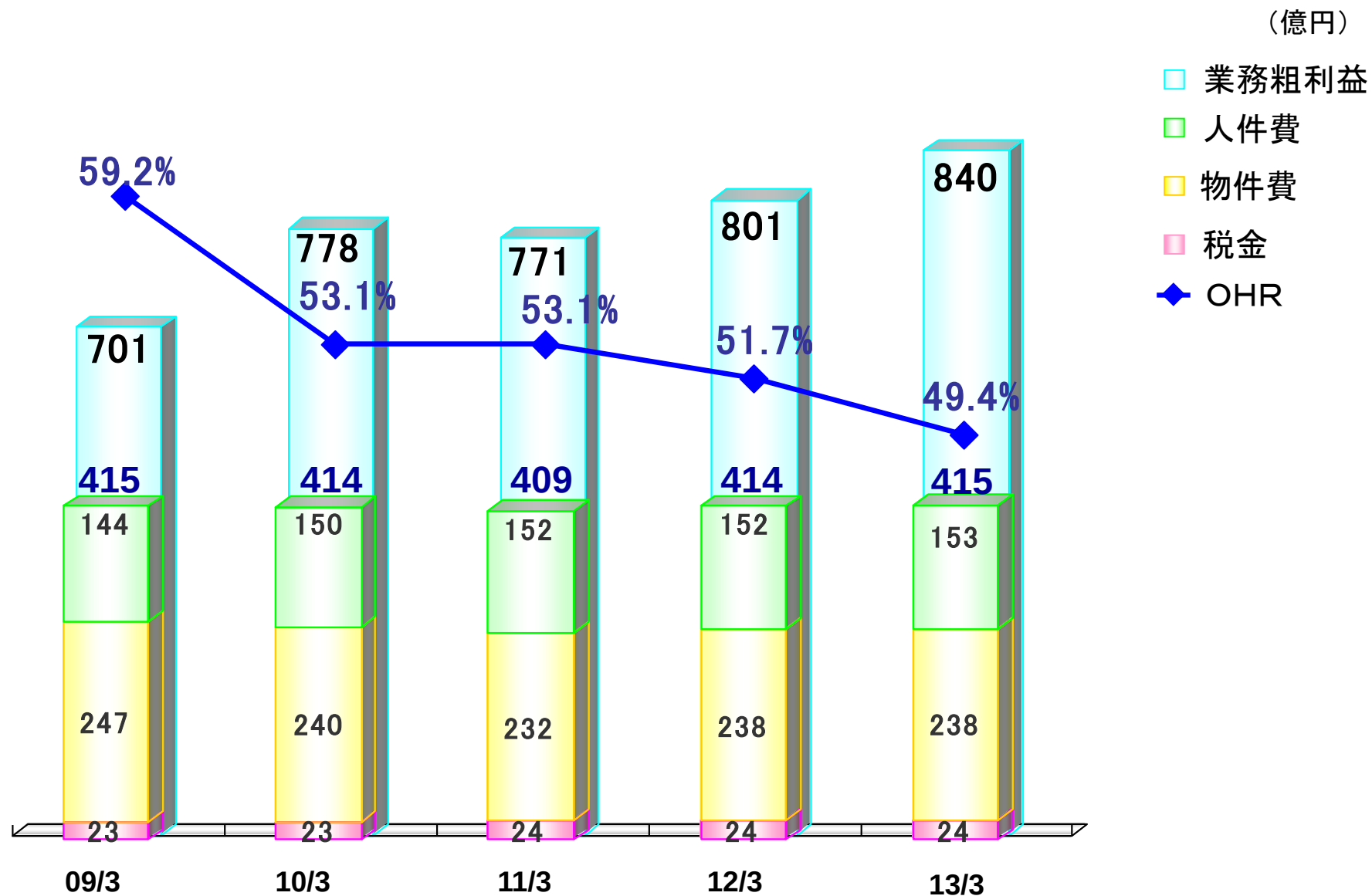


投信・保険手数料収入

- 投信販売手数料
■ 投信信託報酬
■ 個人年金保険手数料
■ その他保険(火災、一時払終身、保障性)
- (百万円)



■ 経費・OHRの推移



金融再生法開示債権詳細

(億円)

開示区分	13年3月期 与信残高	構成比	法人・個人別 与信残高		構成比	担保・ 保証合計	担保	保証	保全率	引当	引当率	カバー率
破産更生債権 及びこれらに 準ずる債権	111	0.40%	個人	83	0.35%	48	40	8	57.94%	35	100%	100%
			法人	28	0.66%	24	13	11	83.71%	4	100%	100%
危険債権	239	0.86%	個人	52	0.22%	31	23	8	60.57%	13	66.34%	86.72%
			法人	187	4.31%	155	56	99	82.99%	21	66.34%	94.27%
要管理債権	208	0.75%	個人	103	0.44%	69	68	1	67.26%	9	25.94%	75.75%
			法人	105	2.43%	38	38	0	36.63%	16	24.17%	51.95%
合 計	558	2.01%	個人	238	1.01%	148	131	17	62.55%	57	64.23%	86.60%
			法人	320	7.40%	217	107	110	67.85%	41	40.61%	80.90%
正常債権	27,181	97.99%	個人	23,162	98.99%							
			法人	4,019	92.60%							
総与信合計	27,739	100%	個人	23,400	100%							
			法人	4,339	100%							

カバー率合計

83.32%

保全率

: 担保・保証による保全率

引当率

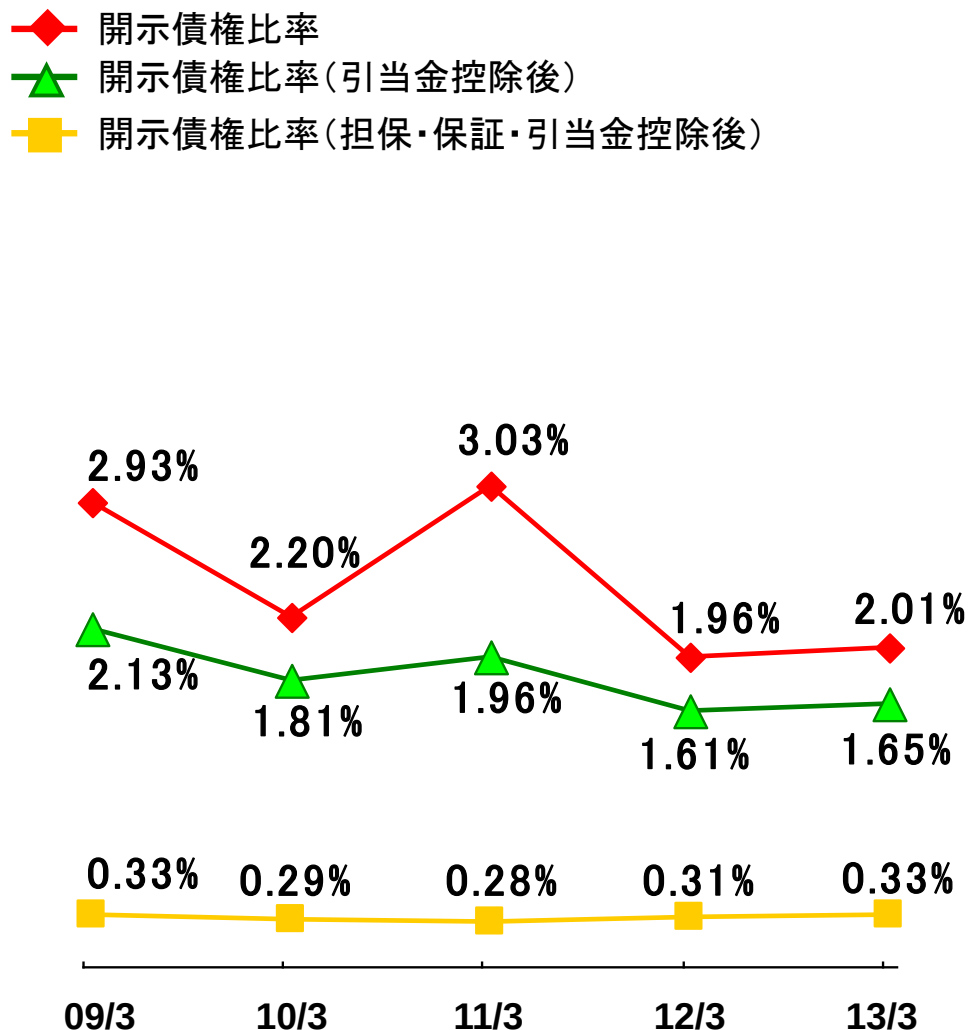
: 無担保部分への引当率

カバー率

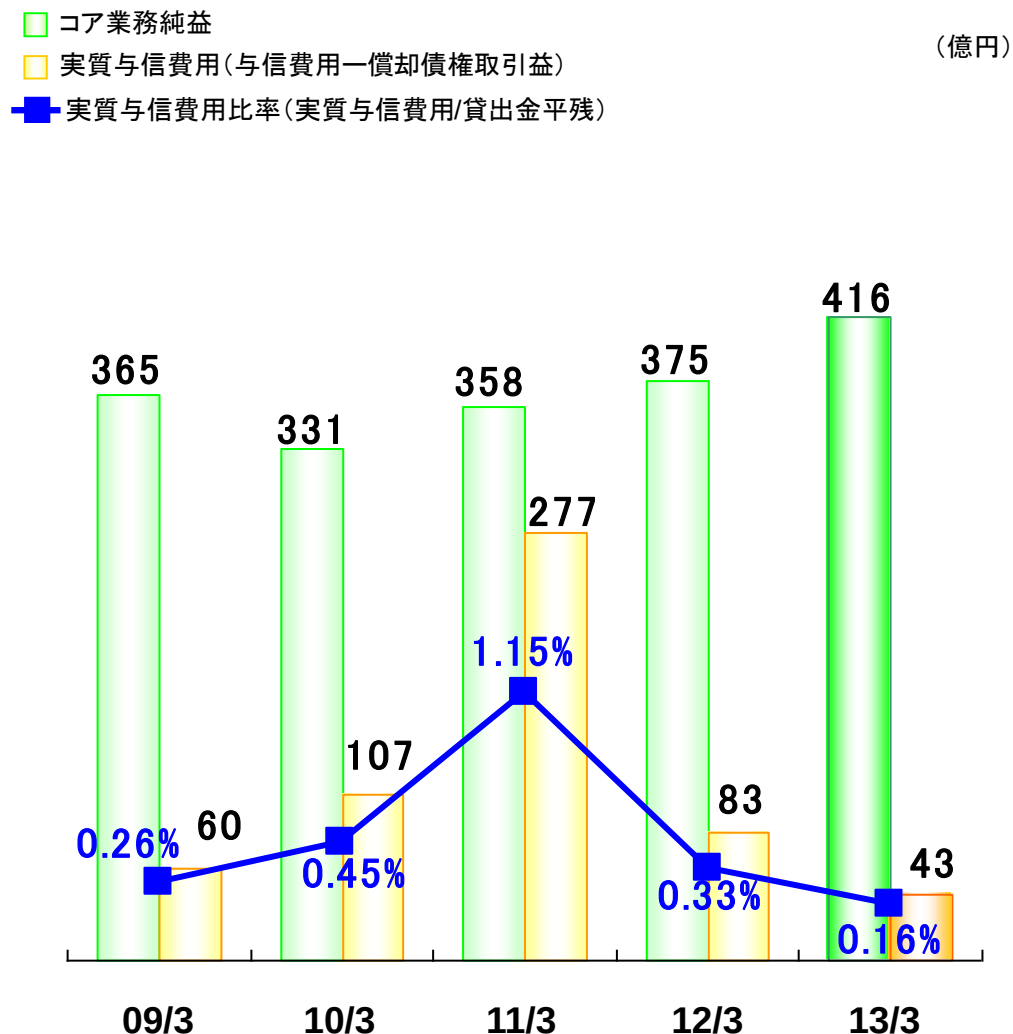
: 担保・保証・引当を考慮したカバー率

■ 開示債権比率と実質与信費用の推移

開示債権比率



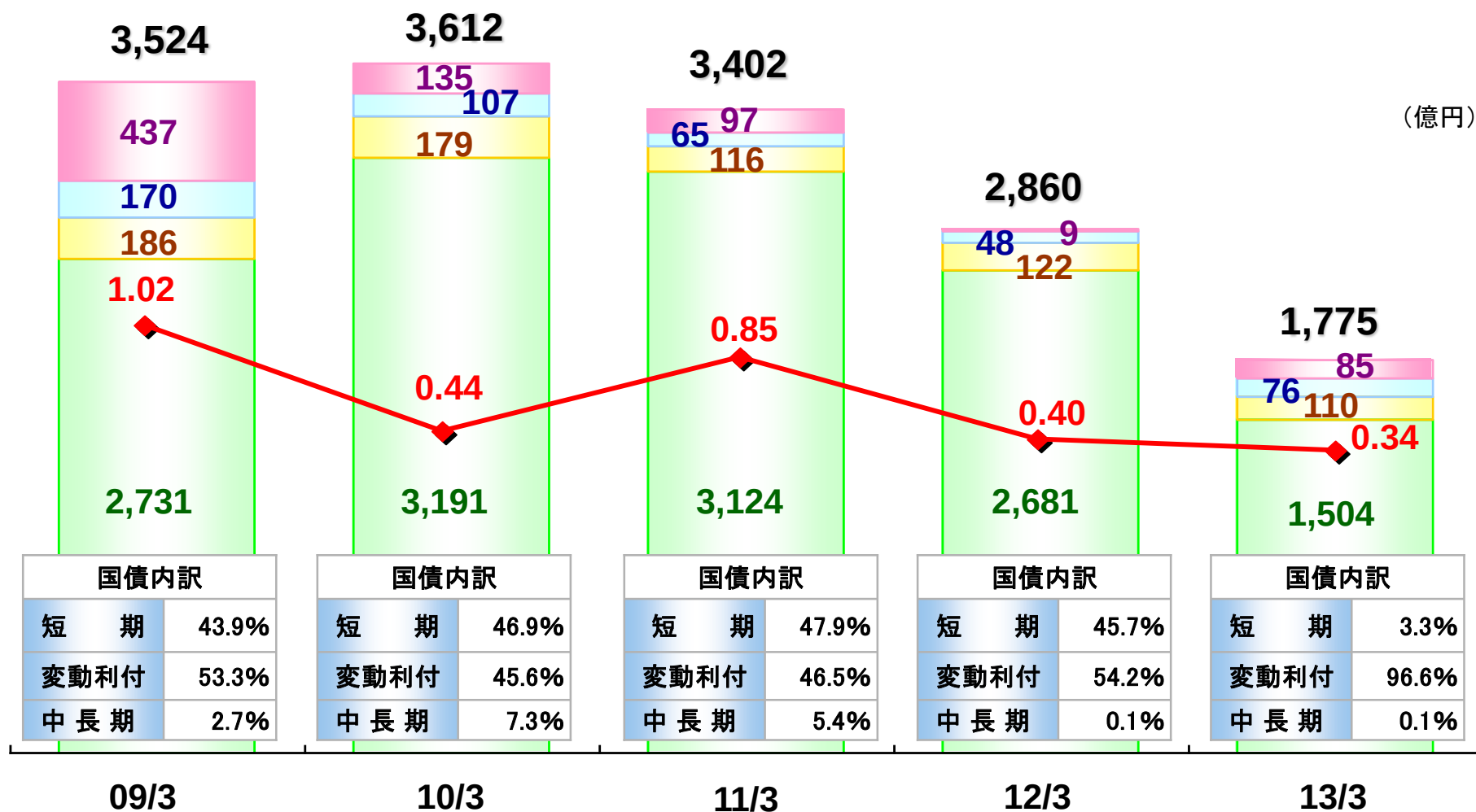
実質与信費用



■ 債券ポートフォリオの推移

◆ 平均残存期間(年)
 ■ 国債
 ■ 外国債券
 ■ 社債
 ■ 地方債

預証率 6.6%



■ リスク量の状況

統合リスク管理

2012年9月末

Tier I

(億円)

1. 信頼水準 99% (共通)
2. 保有期間 (営業日)
 - ・信用リスク 240日
 - ・預貸金、債券等 金利・価格変動リスク 60日 (トレーディング勘定は 10日)
 - ・株式 価格変動リスク 120日
3. オペレーショナルリスク
基礎的手法

バッファ1,333

1,985

652

235

281

136

464

170

166

128

信用リスク

市場リスク

オペレーショナル
リスク

2012下期
配賦原資

2012下期
配賦資本

2013/3月末
リスク量

アウトライヤー比率

2013年3月末

金利ショック
方式

±200bp

金利リスク量

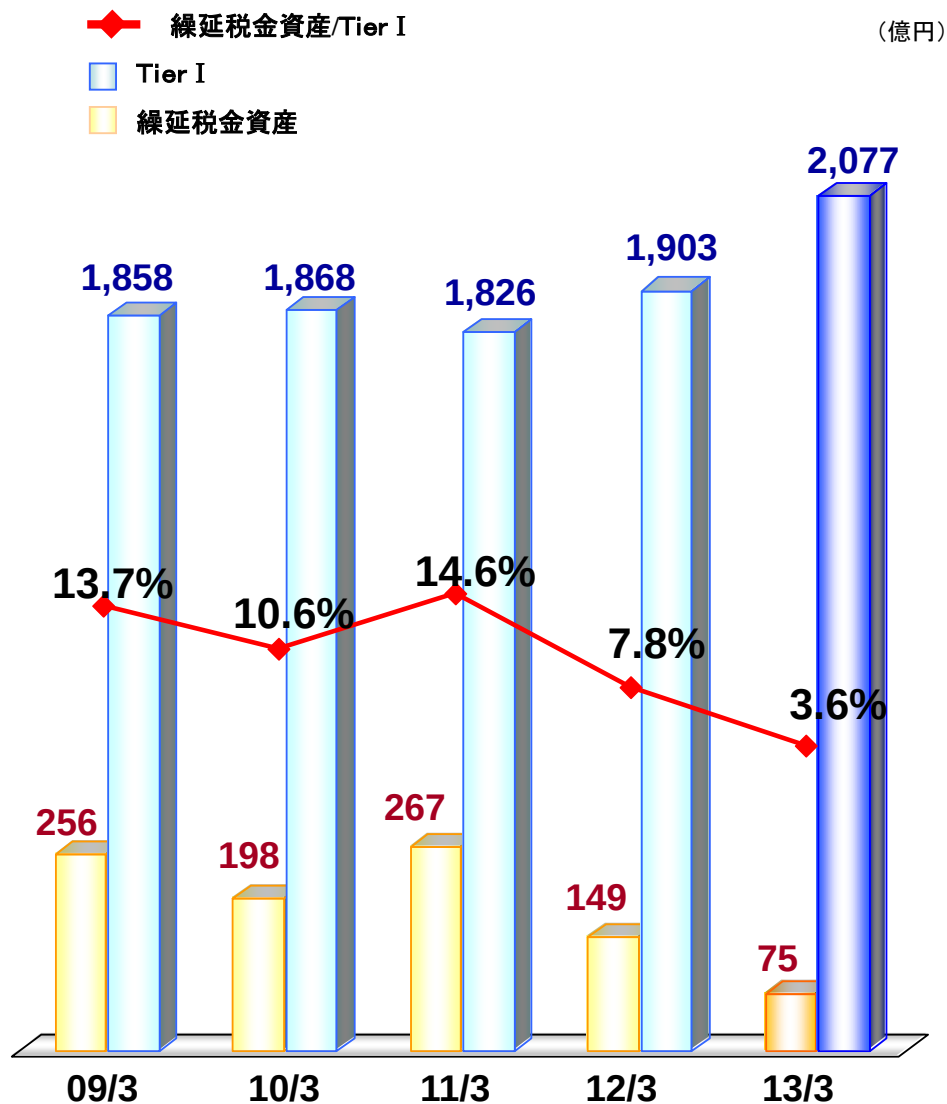
57億円

アウトライヤー
比率

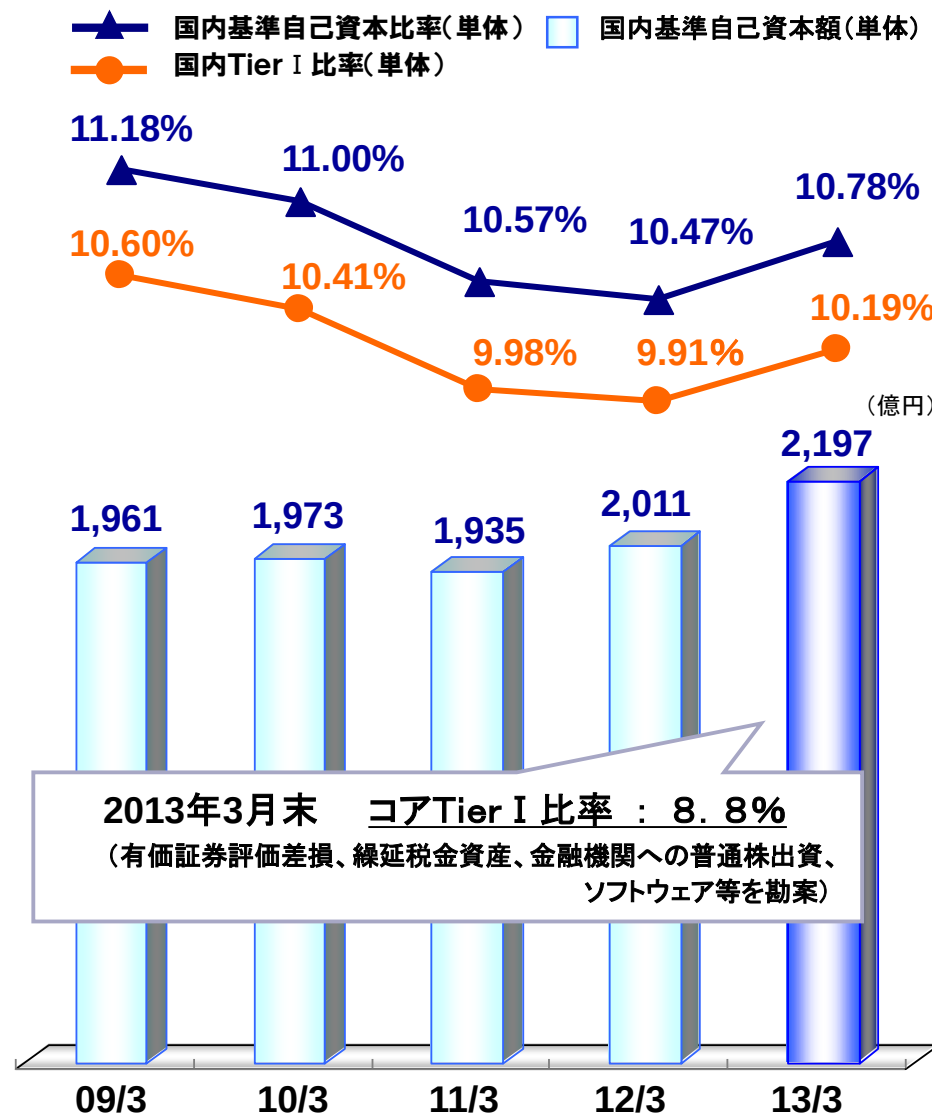
2.5%

■ 自己資本の推移

Tier I 資本・繰延税金資産



自己資本比率



■ 2012年度実績及び2013年度業績見通し

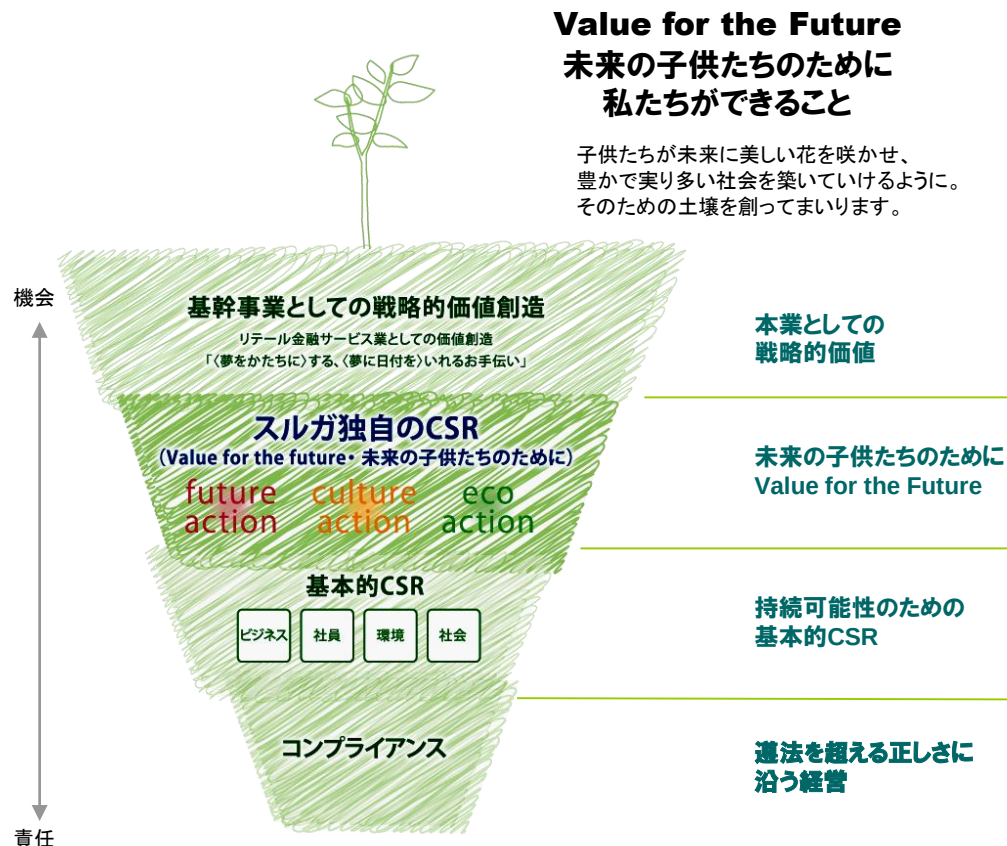
(億円)

	2011年度 実 績 (A)	2012年度 実 績 (B)	前年度比 (B-A)	2013年度 見通し
業務粗利益	801	840	+ 39	870
経費等	414	415	+ 1	440
業務純益	364	424	+ 60	430
コア業務純益	375	416	+ 41	430
経常利益	278	354	+ 76	375
当期純利益	148	210	+ 62	230
実質与信費用	83	43	△ 40	40
ROE(%) (当期純利益ベース)	8. 24	11. 10	+ 2. 86	11. 11
EPS(円)	62. 26	89. 38	+ 27. 12	97. 54
一株あたり配当金(円)	13.0	15.0	+2. 0	15.0

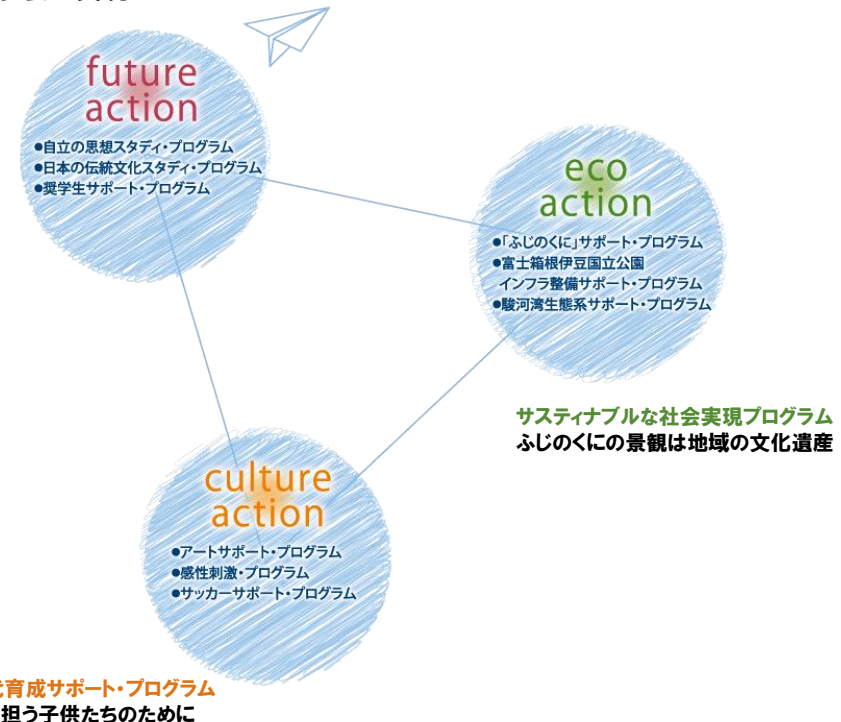
■ スルガの考える未来創造型CSR

変化し続ける時代の声にお応えしながら、持続可能な社会の実現に向けて、
未来を担う子供たちが健やかに成長するための豊かな環境づくり、
「価値ある社会」の創造に向けて、たゆみない挑戦を続けてまいります

スルガのCSRのフレームイメージ

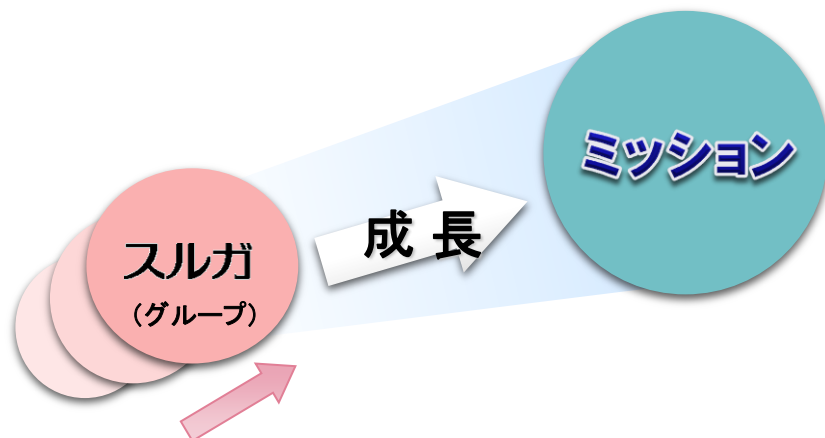


未来創造サポート・プログラム 自助自立社会の実現をめざして



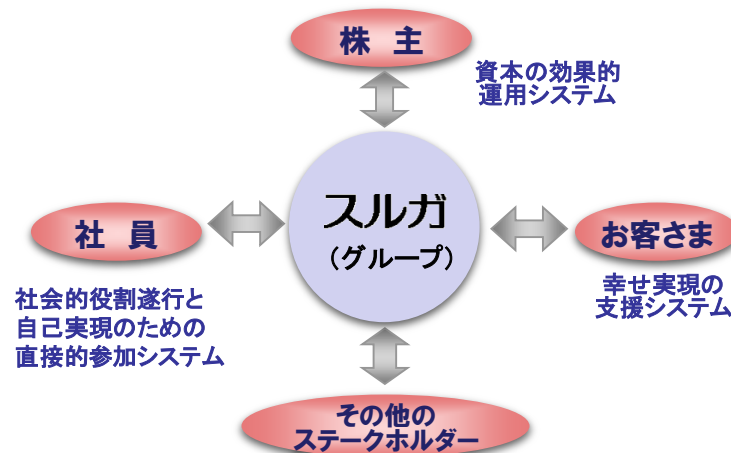
■ 経営理念における成長のあり方

“使命型企业”としての成長



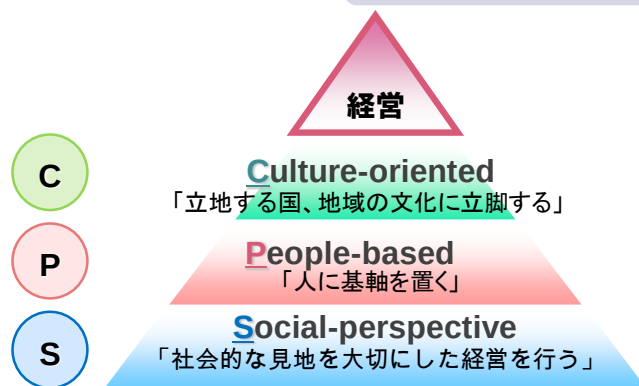
「ライフ アンド ビジネス コンシェルジュとして
〈夢をかたちに〉する、〈夢に日付を〉いれるお手伝いをするという
ミッションの実現性の向上を成長と定義する

“価値交換システム”としての成長



各ステークホルダーとの価値交換性の向上を
成長と定義する

“C・P・S”を原点とした成長



文化を尊重し、その文化を強みとして
活かしていくことにスルガの成長がある

企業の理論ではなく、人の論理を中心に
据えた経営によって成長を実現する

社会的公器としてのあり方を絶えず志向し、
社会規範の上をいく状態を実現する

SURUGA bank

Thank you.

〈 本件に関する照会先 〉

経営管理部 IR

[TEL] 03-3279-5536

[メールアドレス] ir.koho@surugabank.co.jp

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。